

地域遺産オーラル・ヒストリー —鹿児島県始良郡の山田橋に関する調査報告—

羽野 暁¹

¹第一工業大学 講師 自然環境工学科 (〒899-4395 鹿児島県霧島市国分中央1-10-2)
E-mail:s-hano@daiichi-koudai.ac.jp

Oral History of Local Heritage : Interview Report of Historic Bridge, Yamada-bashi bridge

Satoshi HANO¹

¹Lecturer, Dept. of Civil and Environmental Engineering, Daiichi Univ. Institute of Technology
(Kokubu-Chuo 1-10-2, Kirishima-shi, Kagoshima-ken 899-4395, Japan)
E-mail:s-hano@daiichi-koudai.ac.jp

Abstract : Removal of the historic reinforced concrete bridges, constructed in Taisho and early Showa periods, is pushed forward. That “endangered concrete bridges” which have characteristic decorative shapes can become the core of regional revitalization. In this paper, we report on the local history of Yamada-bashi bridge which was constructed in 1929. We get knowledge about the aim of construction, backgrounds, situation, and effect of the construction using the oral history method by hearing survey to local old inhabitants, and we describe the results including local history table and map. These documents will become the valuable records of local heritage history.

Key Words : oral history, local heritage, historic bridge, interview report, cultural landscape

1. 研究の目的と背景

地域で過疎高齢化が進む中、住民が豊かさを実感し誇りを持てる地方の創生が求められている。自治体財政力の低下に伴う公的サービスの画一化、コミュニティの弱体化が加速し、地域らしさを有する風景の崩壊が進んでいる。

土木学会では歴史的構造物を選奨土木遺産に認定し、まちづくりへの活用を促している。明治期の近代化遺産等は徐々に保存・利活用が進んでいるが、大正～昭和初期に建設された地域の近代化を担った『地域橋梁』は、現在、都市化とともに各地で解体撤去が進められている。これらの地域橋梁は、今後の地域活性化に資する貴重な資産であり早急な価値評価が望まれる。このような中で、都市化が遅れた農山村地域にわずかに残る『地域橋梁』を活性化の

核に据えて、当該コミュニティの結びつき強化や風景のアイデンティティ確立を図ることは、地方創生の一助になるであろうと考える。

本研究は、鹿児島県の農村地域に残る地域橋梁のひとつである山田橋（鹿児島県始良郡始良町下名、県道下手山田帖佐線の山田川交差位置）を対象とし、文献調査及び橋梁周辺地域でのオーラルヒストリー調査（ヒアリング調査に基づく歴史的口述資料の収集）により、橋梁の建設経緯や竣工状況、橋梁を中心とした生活史など、橋梁に関する口述史を整理することを目的としている。文献資料に乏しい近代の地域橋梁に対して、口述資料の収集による価値評価は有効であり、また、地域の日常生活の中にある固有の歴史・文化・習慣に関する情報の蓄積は、地域らしい風景づくりの大きな助けになると考える。

2. 山田橋及び周辺地域の概要

山田橋(写真-1)は、1929(昭和4)年に竣工した橋長60.5m、幅員5.8m、6連の鉄筋コンクリート連続T桁橋である。山田橋は、竣工から85年が経過し、山田の凱旋門など周辺施設とともに地域の歴史と風景をつくり出しているコンクリート橋である。親柱・高欄・橋脚・桁持ち送りには、大正～昭和初期の橋梁に多く見られるアール・デコ調の意匠が施されており⁹⁾、地域住民の記憶に強く残る橋梁である。



写真-1 山田橋 (昭和4年竣工)

3. 山田橋に関するオーラルヒストリー調査

(1) 調査の方法

本研究は、オーラルヒストリー法に基づき、山田橋に関する地域住民の個人史及び山田橋周辺の歴史的空間情報の採集を行った。建設経緯から日常利用に至る山田橋の生活景に関する語りを、ICレコーダーにより録音記録し、テキストに書き起こして整理した。ヒアリング調査は対面インタビューとし、インタビュー実施場所は山田橋の橋詰や山田地域の街路上など、記憶の鮮明化が期待できる場所とした。事前の既往文献調査(表-1)により収集した山田橋や山田村ほか周辺地域の古い写真・記述を見せながらインタビューを実施し、記憶がより鮮明となるよう工夫した。

表-1 調査文献一覧

	文献名称	著者
1	鹿児島県始良郡山田村郷土誌	山田村教育会
2	始良地方の研究 郷土研究号二	松山雅雄
3	鹿児島県史	鹿児島県
4	始良町郷土誌	始良町郷土誌 編集委員会
5	ふるさとの思い出写真集 明治・大正・昭和 鹿児島	芳即正
6	写真に見る始良町の今昔	始良町 歴史民俗資料館
7	目で見える国分・始良の100年	小野郁子、 甲斐保之 他
8	写真アルバム 霧島・始良・伊佐の昭和	安田孝治、 大脇直 他

(2) 調査結果

山田地域に住む 80～90 歳代の古老(表-2)を中心に、山田橋や周辺地域に関するヒアリング調査を実施した。調査により得られた音声の書き起こしデータを要約し、A：先代の木橋、B：新橋建設の経緯、C：建設工事の状況、D：竣工後の山田橋と周辺環境、E：戦時中の5項目に分類し整理した(図-1)。合わせて、分類の各事項に対応する位置をマップに整理した(図-2)。ヒアリング調査内容と既往文献調査内容を照合することで、より具体的に当時の状況が整理できた。

表-2 ヒアリング対象者一覧

対象者	対象者概要	年齢	ヒアリング場所	ヒアリング日時
A	山田橋横に暮らし、山田橋の建設を見て知る古老	91	山田橋の橋詰	2014年11月29日 10:00～11:00
				2014年12月18日 11:40～11:50
B	山田地域に暮らす古老	84	山田橋の橋詰	2014年11月29日 10:00～11:00
C	山田地域に暮らす古老	81	山田橋の橋詰	2014年11月29日 10:00～11:00
D	山田地域に暮らす古老	81	山田地域 新馬場通り	2014年11月28日 9:30～9:40
E	山田橋横に暮らす古老	60代	山田橋の橋詰	2014年11月29日 10:00～11:00
F	始良地域の歴史研究者	60代	始良歴史民俗資料館	2014年10月31日 14:00～14:40
G	山田地域の歴史研究者	40代	山田小学校	2014年11月13日 11:30～12:00



写真-2 ヒアリング状況 (山田橋の橋詰)

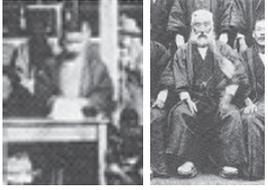
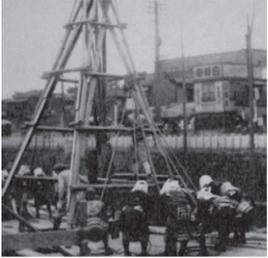
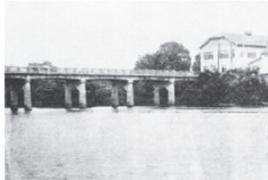
項目	ヒアリング調査内容	文献補足
A 先代の木橋	<p>A1: 先代山田橋は現山田橋より10m上流側に架かっていた A2: 橋詰には旅館が建ち並び、高等馬車も通り賑わっていた A3: 昭和2年に山田川の大洪水により木橋の半分が流失した A4: 流失後、人が渡れる仮橋を設けたが高等馬車は通れなかった</p> <p>「大川が出て半分ひん流れた」「橋ができるまで人間が渡れる架け橋を半分作ったわけ」「こっちはこれないわけ。橋がなかったから。高等馬車が停留よ。」</p>	 <p>昭和2年8月の豪雨で決壊した川内川の荒瀬堤防の修復状況(文献8より)</p>
B 新橋建設の経緯	<p>B1: 県議会議員の瀬戸山良敏氏が新橋の建設に尽力した B2: 鹿児島県一の橋を造ろうという思いがあり橋灯もつけた</p> <p>「幹線道路でしょ。それでこの橋をば早く作らんないかん。どうしたらよからうか。その時当時、県議会議員をしようとした瀬戸山良敏敏人がおられて」「その人に頼んで早く作ってくれ幹線道路だからどうしようがない。そんなら今の橋は壊さんうちに作ろうと。しかし、せっかく作るんだから鹿児島県一の橋を作ろうと、あの上に街灯がついたんですよ。それで綺麗な橋やったんですよ」「大川が出て、橋が流れて、県会議員の瀬戸山さんの力ですぐ着工したわけ」</p>	 <p>瀬戸山良敏氏(左: 明治30年代の山田村村長時、右: 大正期と思われる)(文献6より)</p>
C 建設工事の状況	<p>C1: 昭和3年から4年にかけて、1年で造った C2: 現場監督は桜島から来た白川氏 C3: 白川氏は始良に疎く、建設用の松板や松杭などの木材は原口氏の父が橋横で経営する製材所が調達した C4: 山田橋の下部工基礎は松杭</p> <p>「うちは製材所やったからその型枠。松材ですよ。それを探さないかん。うちも〜探しました。この橋を作るのは桜島の白川さんち人がきて」「それでうちのオヤジもほ〜れ困った。松材を探すのかと。これだけの基礎の全部、枠板は松ですから。この下も掘ってみたら松の杭ですよ」「もうあんま知らんもんだから、うちの製材所をたよって、松材を見つけてくれんですかーち」</p> <p>C5: 建設現場は大勢の人間でにぎわった C6: 塩田に従事できない人が松原から山田橋建設現場に出稼ぎに来ていた C7: 松原からの出稼ぎ労働者は女性が多く、エンヤコーラの掛け声で橋梁の基礎づくりに携わった(ヨイトマケ労働者)</p> <p>「朝から晩まで人間が多かったからそこらじゅう人間だったから」「松原の女の人がエンヤコーラエンヤコーラでずっと作ったんですよ」「基礎作りをね」「松原のひとたちがね全部きよったです」「あのころは、もう松原はね塩田があったから、塩田にいられない人は仕事がないんですよ」「浜風がふくからね。農業はできないの。出稼ぎいかな」</p>	 <p>帖佐村製塩場(昭和初年の写真)。明治8年に完成した松原の塩田は、昭和26年の閉鎖まで鹿児島県内有数の製塩場として栄えた(文献6より)</p>  <p>昭和初期のヨイトマケ現場風景。戦前は橋梁や建築の基礎工事に従事する女性労働者が多かった(写真はウェブサイトより)</p>
D 竣工後の山田橋と周辺環境	<p><山田橋について></p> <p>D1: 竣工時には親子3代での渡り初め式を行った D2: 山田橋の橋灯は電燈であった D3: 山田橋の橋灯と、後にできた帖佐橋の橋灯が同じような形状であった D4: 帖佐から山田橋を見学に来る人がいた D5: 山田橋から凱旋門に至る新馬場の通りは商店で賑わっていた D6: 山田橋から寺脇の通りは職人の店で賑わっていた D7: 山田橋の周辺には旅館が営業しており、高等馬車の停留所があった</p> <p>「それで親子3代の渡り式があったんですよ」「街灯は電気」「高等馬車の停留所だからみんな泊まりにきとったわけ」「帖佐(橋)はできていなかった。それでいかにできて良い橋だなあ見に来はった」「寺脇は職人で、たんこや(桶屋)があったり」「桶旅館はあった。吉水旅館もあとから作ったんじゃないかな」</p> <p><山田の町や川、生活・風習について></p> <p>D8: 昭和戦前から山田地域には電気が通っていた D9: 山田地域は、周囲の山村地域から市街へ出る中継地であった D10: 山田で1泊し、翌朝、市街へ向けて出発していた D11: 山田川はアユ漁、ウナギ漁が盛んだった D12: 小学校の運動会で山田橋を真似して組体操でブリッジをしていた D13: 運動会のときは杉でアーチ形状の門を作っていた</p> <p>「電気は通った」「製材所も電気は来ちゃったから」「それでいかになんで運動会るときに杉の門を作ってた」「でその前であのブリッジ、あの体操の、運動会の時に」「うなぎ釣りがすくはざんだった」</p>	 <p>別府川に架かる帖佐橋(昭和13年撮影)(文献6より)</p>  <p>高等馬車が通る山田橋、橋灯も確認できる(昭和5年撮影)(文献6より)</p>  <p>山田橋と山田旅館、水明旅館(昭和15年撮影)(文献6より)</p>
E 戦時中	<p>E1: 山田橋は米軍の攻撃標的にされた E2: 爆弾投下を受けたが、橋には命中せず橋脚の横に落ちた E3: 山田橋の橋灯と橋名板は、戦時中に撤収された</p> <p>「戦争の時はもうなかった」「橋名板も戦争中に」「銅板を供出したわけよ。ほら戦争中」</p>	<p>昭和6年の山田村電気事業: 加治木電気、電力・力、原口常太郎、製材用・精米用(文献1より)</p>

図-1 オーラルヒストリー調査結果一覧



図-2 オーラルヒストリー調査結果マップ

4. 結論

本研究は、山田橋周辺地域でのオーラルヒストリー調査により、山田橋の口述史を整理することを目的として行った。結果として、山田橋に関する歴史的口述資料が多く得られた。山田橋の建設に尽力した瀬戸山良敏氏の思想や、帖佐松原の塩田業に従事できなかった女性が基礎の締固め工事に出稼ぎに来ていたこと（ヨイトマケ労働者）、山田橋の橋灯の照明は電気灯であったこと、帖佐から山田橋を見学に来る者がおり、後に同形状の橋灯を有する帖佐橋が建設されたこと、山田小学校では山田橋のアーチを真似て組体操でブリッジをしていたこと等、既往の文献調査では得られない貴重な地域の歴史情報が得られた。これらは既往の文献資料には無い口述資料であり、文献資料に乏しい大正～昭和初期の地域橋梁である山田橋に関する歴史資料が蓄積できた。

- 2) 松山雅雄：始良地方の研究 郷土研究号二，鹿児島県女子師範学校，昭和10年
- 3) 鹿児島県：鹿児島県史，昭和14年
- 4) 始良町郷土誌編纂委員会：始良町郷土誌，始良町，昭和43年
- 5) 芳即正：ふるさとの思い出写真集 明治・大正・昭和 鹿児島，佐藤今朝夫，昭和55年
- 6) 始良町歴史民俗資料館：写真に見る始良町の今昔，始良町，平成4年
- 7) 小野郁子，甲斐保之他：目で見える国分・始良の100年，神津良子，平成16年
- 8) 安田孝治，大脇直他：写真アルバム 霧島・始良・伊佐の昭和，山田恭幹，平成26年
- 9) 川原佑太，下優作，園田晃志郎，永吉勇輝，羽野暁：昭和初期コンクリート橋梁親柱・高欄の製作技術に関する調査研究，第一工業大学研究報告第26号，pp. 145-149，2014

付録

参考文献

- 1) 山田村教育会：鹿児島県始良郡山田村郷土誌，始良市歴史民俗資料館，昭和6年

謝辞

本研究は、鹿児島県建設技術センターより地域づくり助成事業として支援を賜りました。記して謝意を表します。